

# 安全データシート (SDS)

## 1. 化学品（製品）及び会社情報

化学品（製品）の名称	メグミックス ブラック
製品名	120281-2206
整理番号	2液ウレタン樹脂接着充填剤
製品の種類	
会社情報	
会社名	メグロ化学工業株式会社
住所	茨城県古河市下大野1768
担当部署	技術部
電話番号	0280-92-1221
FAX 番号	0280-92-7147
E-mail アドレス	meguro@meguro-kk.co.jp
緊急連絡先	0280-92-1221
推奨用途及び使用上の制限	金属材料やプラスチック材料等への接着充填剤

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類	
物理的科学的危険性	
引火性液体	: 区分に該当しない
健康に対する有害性	
急性毒性 (経口)	: 区分に該当しない
(経皮)	: 分類できない
(吸入: ガス)	: 区分に該当しない (分類対象外)
(吸入: 蒸気)	: 区分に該当しない
(吸入: 粉塵)	: 区分4
(吸入: ミスト)	: 分類できない
皮膚腐食性/刺激性	: 区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 区分2B
呼吸器感受性	: 区分1
皮膚感受性	: 区分1
生殖細胞変異原性	: 分類できない
発がん性	: 分類できない
生殖毒性	: 分類できない
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 区分1 (呼吸器)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: 区分1 (呼吸器)
誤えん有害性	: 分類できない
環境に対する有害性	
水生環境有害性 短期 (急性)	: 分類できない
水生環境有害性 長期 (慢性)	: 分類できない
オゾン層への有害性	: 分類できない

### GHSラベル要素 絵表示



注意喚起語	危険
危険有害性情報	吸入すると有害 (粉塵) 皮膚刺激 眼刺激 吸入するとアレルギー、ぜん息又は呼吸困難を起こすおそれ アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ 臓器 (呼吸器) の障害 長期にわたる、または反復ばく露による臓器 (呼吸器) の障害

注意書き 『 本製品にはイソシアネートが含まれているので、皮膚に付着したり、蒸気・粉じんを吸入したりした場合、中毒を起こすおそれがあります。取り扱いには下記の注意事項を守って下さい。 』

「安全対策」 使用前に取り扱い説明書を入手すること。  
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。  
容器を密栓しておくこと。  
粉塵・ミスト/蒸気/スプレーの吸入をしないこと。  
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

- 「応急措置」 取り扱い後は手及び身体をよく洗うこと。口をすすぐこと。  
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面など保護具を着用すること。  
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。  
容器は丁寧に扱い、内容物をこぼさないこと。  
環境への放出を避けること。  
指定された用途以外には使用しないこと。  
火災の場合、消火するために炭酸ガス消火器、泡消火器、粉末消火器等を使用すること。  
物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。漏出物を回収すること。  
吸入した場合、気分が悪いときは医師の診断／手当てを受けること。  
皮膚に付着した場合、多量の水で洗うこと。  
皮膚刺激が生じた場合、医師の診察／手当てを受けること。  
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師の診察／手当てを受けること。  
飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。  
「保管」 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。  
容器を密栓しておくこと。日光から遮断すること。換気の良い場所で保管すること（5～35℃）。  
湿気を遮断すること。水と接触させない事。  
「廃棄」 子供の手の届かない場所に保管すること。  
内容物や容器は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託し廃棄すること。

### 3. 組成及び成分情報

単一化学物質・混合物の区別 混合物  
化学名または一般名 2液ウレタン樹脂系接着剤

#### 成分情報 ＜主剤（黒色）＞

成分番号	内容成分 （化学名または一般名）	含有量 [wt%]	化学式	CAS No	PRTR 法 2008 改正	PRTR 法 2021 改正
1	脂肪酸エステル類	45-55	—	—	非該当	非該当
2	無機充填剤	45-50	—	—	非該当	非該当
3	カーボンブラック	1未満	C	1333-86-4	非該当	非該当
4	添加剤	1未満	—	—	非該当	非該当

#### 成分情報 ＜硬化剤（白色）＞

成分番号	内容成分 （化学名または一般名）	含有量 [wt%]	化学式	CAS No	PRTR 法 2008 改正	PRTR 法 2021 改正
5	ポリイソシアネート化合物	45-55	—	—	非該当	非該当
6	MDI	23	C <sub>15</sub> H <sub>10</sub> N <sub>2</sub> O <sub>2</sub>	101-68-8	1種 政令番号 1-448	管理番号 448 1種 政令番号 1-498
7	無機充填剤	45-55	—	—	非該当	非該当

※ MDI：メチレンビス（4，1－フェニレン）＝ジイソシアネート  
（4，4’－ジフェニルメタンジイソシアネート）

### 4. 応急措置

- 吸入した場合 蒸気やガスなどを吸い込んで、気分が悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
症状が改善しない場合や気分が悪いときは医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合 多量の水及び石鹸または皮膚用の洗剤で十分に洗い流す。溶剤、シンナーは使用しないこと。  
直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。再使用前に洗濯すること。  
付着物は布で素早く拭き取ること。
- 眼に入った場合 外観に変化が見られたり、皮膚刺激が生じたりした場合、医師の診察／手当てを受けること。  
水で数分間注意深く洗うこと。  
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 飲み込んだ場合 眼の刺激が続く場合、医師の診察／手当てを受けること。  
多量の水で口の中をよく洗い、安静にして直ちに医師の診断を受けること。  
嘔吐物は飲み込ませないこと。
- 予想される急性症状及び遅発性症状 医師の指示による以外は、無理に吐かせないこと。  
吸入による呼吸器官への刺激、咳、息切れ、めまい、し眠、頭痛。  
飲み込みによる胃腸の刺激、吐き気、嘔吐、下痢、咳、めまい、し眠、頭痛。  
接触による皮膚の刺激と乾燥、及び目の刺激、発赤、痛み。  
過度のばく露で麻酔作用、頭痛、めまい、視野狭窄、吐き気、下痢及び意識喪失。
- 応急処置をする者の保護 火気に注意する。十分な換気を行う。  
状況に応じて適切な眼・皮膚の保護具を着用する。

## 5. 火災時の措置

消火剤 使ってはならない消火剤	粉末消火剤、炭酸ガス、泡（耐アルコール）消火剤、乾燥砂 水（棒状水、高圧水） 散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、散水以外の適切な消火剤を使用すること。
特有の危険有害性	引火性液体及び蒸気。 加熱により容器が爆発するおそれがある。
特有の消火方法	燃焼の際は、刺激性、毒性、または腐食性のガスを発生する恐れがある。 消火作業は風上から行うこと。 付近の着火源を取り除くこと。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合は容器および周囲に散水して冷却する。
消火を行う者の保護	消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 消火作業の際は、適切な保護具（空気呼吸器、化学用保護衣、耐熱性着衣など）を着用すること。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、	作業の際には適切な保護具（保護手袋、保護マスク、眼鏡、ゴーグル等）を着用すること。 眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者の立ち入りを禁止する。 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。 風上に留まる。 低地から離れる。
環境に対する注意事項	密閉された場所に入る前に換気する。 排水溝、下水溝、地下室あるいは密閉場所への流入を避ける。 河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
回収、中和、封じ込め 及び浄化の方法	少量の場合は、紙や布で拭き取り、「廃棄上の注意」に従って廃棄する。 多量の場合は、開放した容器にできる限り集め、残留物を土砂、珪藻土、おが屑など 不活性吸収剤に吸着させる。 危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止	漏出物を取り扱う時、用いる全ての設備は接地する。 全ての着火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 蒸気発生が多い場合は、噴霧注水により蒸気発生を抑制する。 関係箇所に通報し応援を求める。

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い 技術的対策	熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。 容器を接地しアースをとること。 防爆型の電気機器／換気装置／照明機器／その他機器を使用すること。 火花を発生させない工具を使用すること。 静電気放電に対する措置を講ずること。 排気／換気設備を設ける。
安全取扱注意事項	全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 ミスト／蒸気／スプレーの吸入をしないこと。 皮膚に触れないようにすること。眼に入らないようにすること。飲み込まないこと。 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面など保護具を着用すること。 取り扱う際には、飲食、喫煙はしないこと。 眼、皮膚、衣類につけないこと。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合は洗濯すること。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取り扱いをしてはならない。 取り扱い後はよく手を洗うこと。 環境への放出を避けること。
保管 保管条件	火気・熱源から遠ざけて保管すること。 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 直射日光を避けること。涼しいところにおくこと。 火気・熱源から遠ざけて保管すること。 施錠して保管すること。子供の手の届かないところに保管すること。 指定数量以上の危険物は、貯蔵所以外の場所でこれを貯蔵してはならない。 漏れ、あふれ、飛散しないよう必要な措置を講ずること。

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 各成分管理濃度、許容濃度 < 主剤（黒色）>

成分 番号	内容成分 （化学名または一般名）	管理濃度	許容濃度 [ppm]	
			日本産業衛生学会	ACGIH (TWA)
3	カーボンブラック	—	第2種粉塵として 吸入性粉塵 1 mg/m <sup>3</sup> 総粉塵 4 mg/m <sup>3</sup>	3 mg/m <sup>3</sup> （吸引性粒子）

### 各成分管理濃度、許容濃度 < 硬化剤（白色）>

成分 番号	内容成分 （化学名または一般名）	管理濃度	許容濃度 [ppm]	
			日本産業衛生学会	ACGIH (TWA)
6	MDI	—	0.05 mg/m <sup>3</sup>	0.005 ppm

### 設備対策

蒸気、ミストが発生する場合には、局所排気装置などの排気のための装置を設置することが望ましい。

### 保護具 呼吸器の保護具

取り扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

### 手の保護具

—有機ガス用防毒マスク

### 眼の保護具

—保護手袋（耐熱性ゴム手袋）

### 皮膚及び身体の保護具

—保護眼鏡（側板付き普通眼鏡又はゴーグル型）

### 衛生対策

—作業衣、安全靴

作業中は、飲食または喫煙をしないこと。

取り扱い後は手及び身体をよく洗うこと。口をすすぐこと。

## 9. 物理的及び化学的性質

	< 主剤（黒色）>	< 硬化剤（白色）>
物理状態	ペースト	ペースト
色	黒色	白色
臭い	製品特有の臭いあり	製品特有の臭いあり
融点／凝固点	データなし	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	データなし	データなし
可燃性	データなし	データなし
爆発限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし	データなし
引火点	231 °C	240 °C以上
自然発火点	データなし	データなし
分解温度	データなし	データなし
pH	測定できない	測定できない
動粘性率	データなし （粘性率：約 100000 mPa・s／20°C）	データなし （粘性率：約 100000 mPa・s／20°C）
溶解度	水に不溶	水に不溶
n-オクタノール／水分分配係数（log 値）	データなし	データなし
蒸気圧	知見なし	知見なし
密度及び／又は相対密度（比重）	約 1.3	約 1.33
相対ガス密度（空気＝1）	データなし	空気より大
粒子特性	該当しない（液状）	該当しない（液状）

## 10. 安定性及び反応性

### 反応性

情報なし

### 安定性

常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。

### 危険有害反応可能性

<主剤> イソシアネート類と混合すると反応・硬化し、多量に混合した場合、発熱しながら反応・硬化する。

<硬化剤> 活性水素化合物（水、アルコール、アミン等）と発熱を伴い激しく反応し、圧力上昇による爆発の危険性をもたらす。

### 避けるべき条件

<主剤> 反応するとガスを発生するので、容器を開放する。

### 混触危険物質

<硬化剤> 活性水素基をもつ物質（水など）と発熱反応し、二酸化炭素を発生する。

### 危険有害な分解生成物

<主剤> イソシアネート類

<硬化剤> 活性水素基をもつ物質（水、水分、アルコール、アルカリ物質、アミンなど）

知見なし

## 1.1. 有害性情報

製品としての安全性試験は行っていない。

○ 各成分の健康有害性情報 製品評価技術基盤機構（n i t e）： N I T E 統合版 G H S 分類結果より

	< 主剤（黒色）>		< 硬化剤（白色）>
成分番号	3	4	6
内容成分 （化学名または一般名）	カーボンブラック	添加剤	M D I （ 4,4'-ジフェニルメタンジイソシアネート）
急性毒性（経口）	ラット LD50>8000mg/kg 区分に該当しない	ラット LD50=700mg/kg 区分 4	ラット LD50>2000mg/kg 区分に該当しない
急性毒性（経皮）	分類できない	ウサギ LD50>3200mg/kg 区分に該当しない	分類できない
急性毒性（吸入：ガス）	区分に該当しない（分類対象外）	区分に該当しない（分類対象外）	区分に該当しない（分類対象外）
急性毒性（吸入：蒸気）	区分に該当しない（分類対象外）	分類できない	分類できない
急性毒性（吸入：粉塵）	分類できない	ラット LC50（4時間）>5.05ml/L 区分に該当しない	ラット LC50（4時間）=0.369mg/L（雄） 区分 2
急性毒性（吸入：ミスト）	分類できない	分類できない	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	ウサギ：刺激性はみられなかった 区分に該当しない	ウサギ：Draize Test において、 PDII:4.05 との報告 区分 2	ウサギ：Draize Test において 遅発性刺激物質 区分 2
眼損傷性・刺激性	ウサギ：刺激性はみられなかった 区分に該当しない	ウサギ：PIS（A primary irritation Score）は 7.1/13 であるとの報告 区分 2	ウサギ：軽度の刺激性 区分 2 B
呼吸器感受性	分類できない	分類できない	分類できない
皮膚感受性	分類できない	モルモット：感受性なしとの報告 区分に該当しない	雌モルモット：強いアレルギー反応を示す 区分 1
生殖細胞変異原性	分類できない	マウスの小核試験（in vivo 変異原生 試験）で陰性結果 区分に該当しない	分類できない
発がん性	IARC：グループ 2 B ACGIH：A 3 区分 2	分類できない	分類できない
生殖毒性	分類できない	区分 2	分類できない
特定標的臓器毒性 （単回ばく露）	分類できない	区分 2（中枢神経系）	分類できない
特定標的臓器毒性 （反復ばく露）	区分 1（呼吸器）	区分 1（上気道）	分類できない
誤えん有害性	分類できない	分類できない	分類できない

## 1.2. 環境影響情報

製品としての安全性試験は行っていない。

- ・水生環境有害性以外の生態毒性： 情報なし
- ・残留性・分解性： 情報なし
- ・生体蓄積性： 情報なし
- ・土壌中の移動性： 情報なし

○ 各成分の環境影響情報 製品評価技術基盤機構（n i t e）： N I T E 統合版 G H S 分類結果より

	< 主剤（黒色）>		< 硬化剤（白色）>
成分番号	3	4	6
内容成分 （化学名または一般名）	カーボンブラック	添加剤	M D I （ 4,4'-ジフェニルメタンジイソシアネート）
水生環境有害性 短期（急性）	甲殻類（オオミジンコ）24時間 EC50>5600mg/L 魚類（ウグイ）96時間 LC50>1000mg/L 区分に該当しない	魚類（ファットヘッドミノー）96時間 LC50=1730mg/L 区分に該当しない	藻類、甲殻類および魚類の急性毒性は いずれも>100mg/L 区分に該当しない
水生環境有害性 長期（慢性）	分類できない	急性毒性－区分に該当しない、難水溶性 でない（水溶解度=450mg/L） 区分に該当しない	甲殻類（オオミジンコ）21日間 NOEC>10mg/L 藻類、魚類に対しても慢性毒性の懸念が 低い（NOEC>1mg/L）と推測される 区分に該当しない
オゾン層への有害性	分類できない	分類できない	分類できない

漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与えるおそれがあるので、取り扱いに注意する。  
特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように処分すること。

### 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物：	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 産業廃棄物（廃油と廃プラスチック類）として、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理すること。
汚染容器及び包装：	固形状になったものは、廃プラスチック類として同様に処理する。 空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に、リサイクル又は処分する。

### 14. 輸送上の注意

国連番号 (UN No.)	：	非該当
品名 (Proper Shipping Name)	：	非該当
クラス (Class)	：	非該当
容器等級 (Packing Group)	：	非該当
緊急時対応措置指針番号	：	非該当
国際規制		
海上規制情報 Marine Pollutant	IMOの規定に従う。 ：	Not applicable
航空規制情報	ICAO/IATAの規定に従う。	
国内規制		
陸上規制情報	消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められる 運送方法に従うこと。	
海上規制情報	船舶安全法（危険物船舶運送及び貯蔵規則（危規則））に従う。	
海洋汚染物質	：	非該当
航空規制情報	航空法に従う。	
特別安全対策	移送時にイエローカードの保持が必要。 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは 破損しないように積載すること。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、 荷崩れの防止を確実に。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。重量物を上積みしない。	

### 15. 適用法令

消防法	：	危険物	< 硬化剤（白色） >	第4類引火性液体	第4石油類（非水溶性液体）	危険等級Ⅲ
			< 主剤（黒色） >	指定可燃物（可燃性固体類）		
労働安全衛生法	：	第57条	政令第17条及び第18条	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物（H28/6/1施行）		
			名称等を通ずべき有害物			
			< 主剤（黒色） >	カーボンブラック		
			< 硬化剤（白色） >	MDI（4,4'-ジフェニルメタンジイソシアネート）		
			名称等を通ずべき有害物			
			< 主剤（黒色） >	カーボンブラック（非該当：1wt%未満のため）		
			< 硬化剤（白色） >	MDI（4,4'-ジフェニルメタンジイソシアネート）		
		第14条	政令第6条別表第1	危険物・引火性のもの		
		有機溶剤中毒予防規則		非該当		
		特定化学物質障害予防規則		非該当		
				※ 令和2年4月22日交付時点での追加化学物質まで		
化学物質管理促進（PRTR）法（令和5年3月31日まで）	：	MDI（硬化剤23wt%）		（政令番号1-448）		
化学物質管理促進（PRTR）法（令和5年4月1日施行）	：	MDI（硬化剤23wt%）		（管理番号448）（政令番号1-498）		
毒物及び劇物取締法	：	非該当				
悪臭防止法	：	非該当				
大気汚染防止法	：	有害大気汚染物質		MDI		
水質汚濁防止法	：	非該当				
海洋汚染防止法	：	有害液体物質Y類物質		MDI		
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	：	産業廃棄物（廃油）				

### 16. その他の情報

#### 参考文献

- 1) 溶剤ポケットブック1997（オーム社）
- 2) GHS対応SDS・ラベル作成ガイドブック改訂第4版（日本塗料工業会）
- 3) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構（n i t e）
- 4) 職場のあんぜんサイト：GHS対応モデルラベル・モデルSDS情報
- 5) 化学物質等法規制便覧2021年版（化学工業日報社）
- 6) 各原料SDS 等

本SDSの内容は、法規改正、新しい知見や情報入手、試験等により改訂されることがあります。  
記載内容は現時点で入手できた資料や文献等の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては  
その製品を代表する値であり、保証値ではありません。  
記載にある各事項は通常の取り扱いを対象としたものであり、特殊な取り扱いをする場合には、使用者において  
新たに用途／用法に適した安全策をご実施の上、お取り扱い願います。  
また本SDSには通常の危険性や有害性について記載してありますが、記載内容以外の危険性や有害性が存在しないということは  
保証できません。全ての化学製品には、未知の危険性や有害性があり得るため、お取り扱いには細心の注意が必要です。